

2022年度教育課程編成・実施の方針に照らした教育の取組の適切性に関する検証（CP）

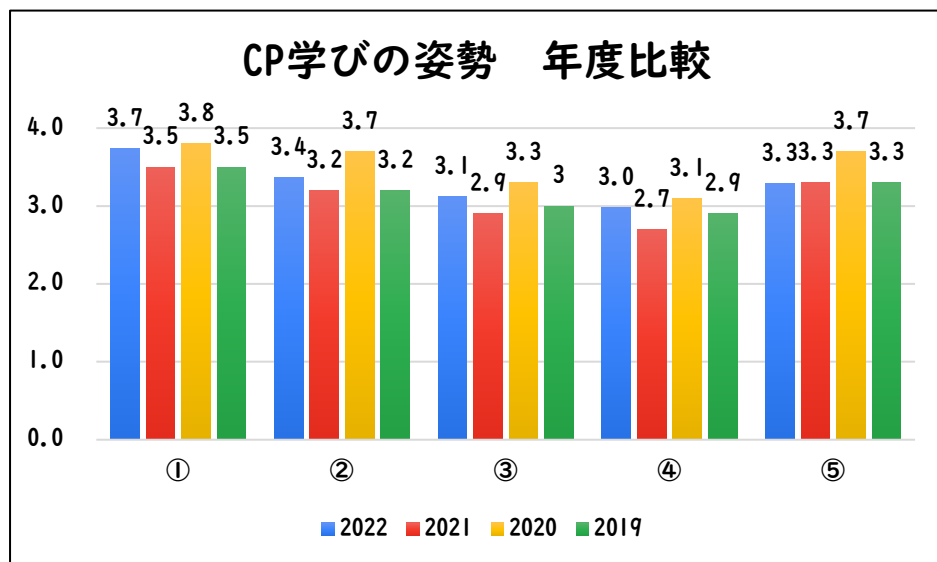
マイステップ・リエゾンポートフォリオ「学びの姿勢振り返り（学科／研究科専攻の教育課程編成・実施の方針）」のデータを活用した検証です。各学科・研究科専攻の学位授与の方針については、本学ホームページの「教育方針」（下記のURL）をご覧ください。

<https://www.tfu.ac.jp/aboutus/policy/index.html>

学科・研究科専攻名 社会福祉学科

カリキュラム・ポリシーに基づき「学びの姿勢振り返り」として、以下に示す5項目について5段階ループリック評価検証を行いました。回答者総数331（昨年346）、1年生168（昨年214）、2年生56（昨年56）、3年生48（昨年24）、4年生59（昨年52）であり、昨年度の回答者と概ね同様の結果でした。ただし、1年生の回答者数が約50名減となっており、次年度の課題といえます。以下に示す結果（図）は、各項目5段階（1～5点）の平均値の年次比較を示しています。

- ① 学修を通して、他者を尊重する態度を身につけようと努めている
- ② 利用者の多角的理解に努められるような学修をしている
- ③ 現代の福祉環境を多角的・多面的に理解できるような学修をしている
- ④ ライフステージに応じた生活課題の発見と解決が主体的にできるようになるための学修をしている
- ⑤ 自分の将来像を意識した履修コースを選択している



満足度（点数）が低い項目は教育・学修方法等の改善を行う際の参考となります。年度比較は、前年度平均値と比較し低いもしくは変化なしの場合は、課題と言えます。ただし、2020年度データは回答総数がわずか126と少なかったため参考にとどめ、他の年度のデータと比較を行いました。

【考察】

2022年度は、前年度と比較し大幅に対面講義の割合が増えました。演習・ゼミは、全て対面での実施となりました。そうした影響（効果）もあり、①～④の項目で改善が見られました（⑤は変化なし）。一方、回答率が上がらなかった点については、次年度の課題といえます。

項目③と④はそれぞれ、他の項目と比べて3.1、3.0と若干評価が低い傾向にありました。この点は、昨年同様であり、リエゾンゼミや資格課程の演習等におけるフィールドワークやコロナ禍で活動が制限されているボランティア活動等の実践機会のさらなる充実化が必要と思われます。全体的には、全ての満足度が3.0以上であることから、教育課程編成・実施の方針に照らした教育の取組みは適切に行われていると思われます。